



宣長の人生を見ていると、願いは叶うものだと思います。

父は、どうしても血のつながった息子に跡を継がせたいと、神様に願った。母は、夫の遺言を守れずとも、息子が立派に生きていける道考えた。京都の師・堀景山は、宣長に古典の面白さを教え、医者として働き始めた松阪には、当時の最新作・賀茂真淵の『冠辞考』を貸してくれる人がいたのです。しかも、真淵先生に会いたいと宣長が望めば、先生の方から松阪へやってくる。

宣長へだけの恩恵ではありません。景山が種をまき、真淵が育てた学問の芽は、多くの人々の出会いによって開花し、人から人へと枝葉が広がっていきます。出会い、質疑応答を繰り返す中で、学問は深化していくのです。真淵先生に怒られながらも友人と情報交換。日常業務に奔走したり、『古事記伝』の執筆が進めば、会いたいと皆から引っ張りだこになったり。そんな宣長の忙しい毎日から、私たちにとっては今や難しくなってしまった“出会うよろこび”を考えます。

宣長が会えてうれしかった！

宣長に会えてよかった！

宣長に会いたかった！

宣長を中心にめぐる、そんな多くの人々のドラマをご紹介します。



休館日	月曜日（祝日の場合は翌日）	
開館時間	9:00～17:00（最終入館時間 16:30）	
入館料	通常料金	団体 30名以上
大人	400円	300円
大学生等	300円	200円
小人	200円	100円
※小学3年生以下無料		

(公財)鈴屋遺蹟保存会 本居宣長記念館
 〒515-0073 三重県松阪市殿町 1536-7
 Tel 0598-21-0312 / Fax 0598-21-0371
<https://www.norinagakinenkan.com>